



理研ビタミン株式会社

証券コード：4526

2024年度 第2四半期（中間期）決算説明会

2024年11月25日

1. 2024年度 第2四半期（中間期）業績

2. 2024年度 業績見通し

冨取：皆様、おはようございます。経営戦略担当の冨取でございます。本日は弊社 2024 年度中間期の決算説明会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。まず私から、2024 年度中間期の実績につき、ご説明をさせていただきます。

- 売上高は5.7%増の**471億円**
営業利益は0.7%増の**46億円**
※為替影響を除くと売上高は3.9%増、営業利益は1.4%減
- 国内食品事業および海外事業は増収も、コスト増により減益
- 国内化成品その他事業は販売数量増加により増収増益

業績のポイントを3点にまとめております。売上高は5.7%増の471億円、営業利益は0.7%増の46億円となっております。為替の影響を除きますと、売上高は3.9%増、営業利益は1.4%減となりました。二つ目、国内食品事業、海外事業につきましては、増収ながら減益となっております。国内化成品その他事業は、販売量の増加もございまして増収増益となりました。

2024年度第2四半期（中間期）業績

理研ビタミン株式会社

前年より利益率は低下も、業績予想を上回る着地

単位：百万円

	2023年度 中間期	2024年度 中間期	前年同期比		業績予想	業績予想比 増減額
			増減額	増減率		
売上高	44,613	47,149	+2,536	+5.7%	45,500	+1,649
営業利益	4,596	4,626	+30	+0.7%	4,000	+626
営業利益率	10.3%	9.8%	▲0.5pt		8.8%	+1.0pt
経常利益	5,220	4,786	▲433	▲8.3%	4,300	+486
親会社株主に帰属する 中間純利益	3,667	3,255	▲411	▲11.2%	3,300	▲44

為替影響額：売上高+776百万円、営業利益+96百万円、為替影響を除くと営業利益は▲66百万円

期中平均レート：2023年度2Q 142円/\$、2024年度2Q 152円/\$

4

業績についてご説明いたします。オレンジの枠の中でございます。売上高 471 億円、前年同期比プラス 25 億円となりました。営業利益 46 億円、前年同期比プラス 3,000 万円、営業利益率につきましては 9.8%、前年同期比マイナス 0.5 ポイントとなっております。経常利益 47 億円、前年同期比マイナス 4 億円。親会社株主に帰属する中間純利益は 32 億円となり、こちらも前年同期比マイナス 4 億円となっております。

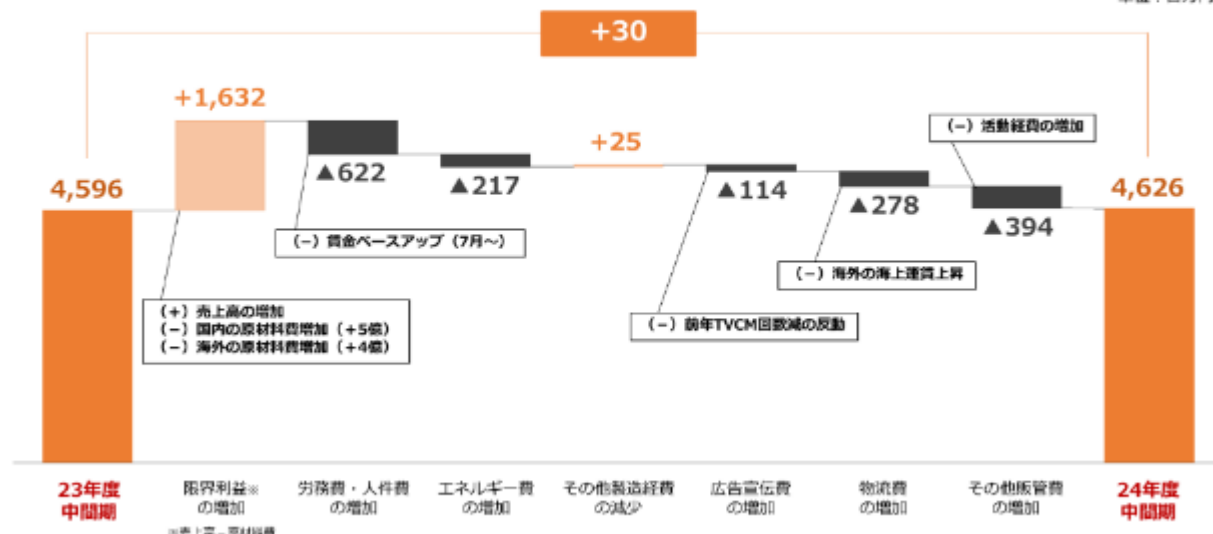
為替の影響額につきましては、表の下に記載しております。経常利益、中間純利益の前年同期比マイナスにつきましては、後ほど理由をご説明させていただきます。

表右側、業績予想との対比を記載しております。売上高から経常利益までは業績予想を上回っておりますが、中間純利益のみ若干下回っております。

営業利益の増減要因

理研ビタミン株式会社

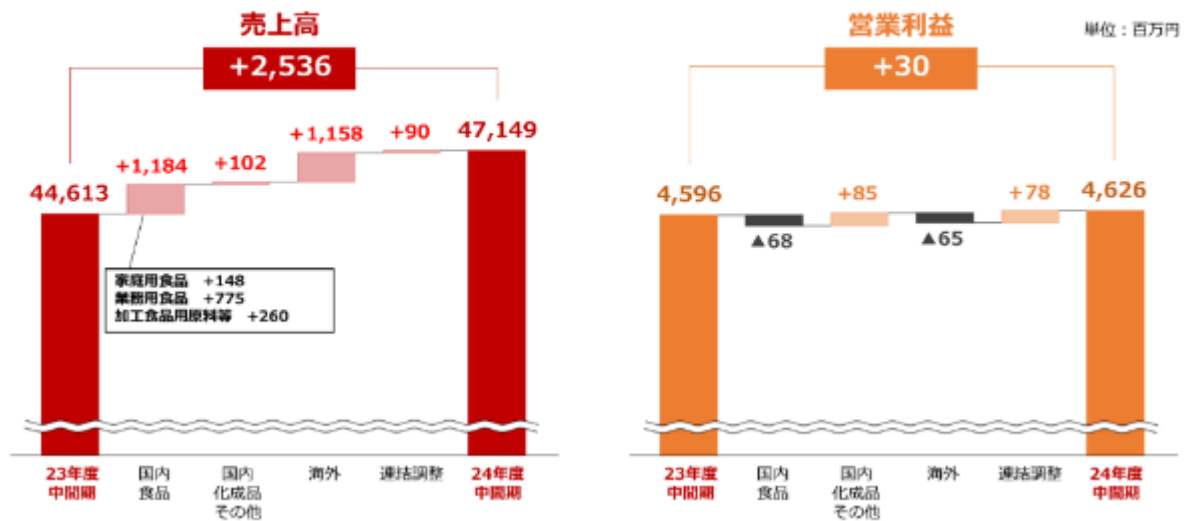
単位：百万円



5

営業利益の増減要因についてご説明いたします。棒グラフ左から二つ目、限界利益の増加で16億円増益いたしました。しかしながら、その右から人件費の増でマイナス6億円、エネルギー費の増加マイナス2億円、広告宣伝費の増加マイナス1億円、物流費の増加マイナス2億円、その他販売管理費等の増加でマイナスの約4億円となり、合計でプラスの3,000万円の増益となっております。

全セグメントで増収も、増益は国内化成品のみ



セグメント別の実績につきご説明を申し上げます。まず左側、売上高でございますが、25 億円の増収となりました。全てのセグメントで増収となっております。特に左側の国内食品事業と右側、海外事業につきましては、10 億円を超える増収となりました。

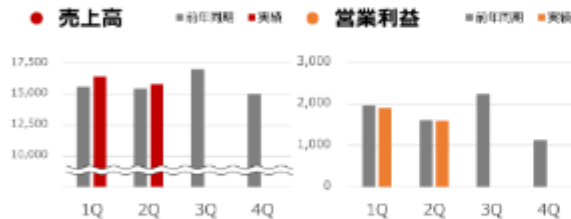
右側、営業利益でございます。3,000 万円の増益となっておりますが、表真ん中、国内化成品その他事業が増益となりましたが、その右と左、国内食品事業、海外事業につきましては減益となっております。

セグメント別概況 国内食品事業（1/2）

理研ビタミン株式会社

国内食品事業

単位：百万円	2023年度2Q	2024年度2Q
売上高	31,082	32,267 ↗
営業利益	3,575	3,506 ↘



- 家庭用食品は新商品やだしの素が貢献
- 業務用食品は外食・中食向けともに伸長
- 加工食品用原料等は食品用改良剤の需要が堅調
ヘルスケア分野は足踏み
- 人件費、物流費、広告宣伝費などが増加

家庭用食品

単位：百万円	2023年度2Q	2024年度2Q
売上高	6,606	6,754 ↗

【主要ブランド別概況】

リケンノンオイル

金額：減少
数量：減少

主力の青じそは健闘も他が苦戦

ふえるわかめちゃん

金額：微増
数量：減少

価格改定前に駆け込み需要あり

わかめスープ

金額：減少
数量：減少

2月の価格改定以降苦戦が続く

オイル入りドレッシング

昨年新商品がヒット
24年8月の新商品も初動は好調

ふりかけるザクザクわかめ

金額：増加
数量：増加

味種追加も寄与し販売伸長

素材力だし

金額：増加
数量：増加

TVCM効果もあり認知拡大

7

セグメント別の概況についてご説明申し上げます。まず国内食品事業からでございますが、左側、全体につきご説明いたします。まず売上高は増収となりましたが、営業利益は減益となっております。全体を通じまして価格の改定が増収に寄与いたしました。一方、先ほど申し上げましたが、人件費、物流費、エネルギー費、広告宣伝費等の費用が増加した結果、減益となっております。

内訳をご説明申し上げます。右側、家庭用食品でございますが、売上高は増えております。右、赤枠の中でございますが、新商品のオイル入りのドレッシングが好調に推移いたしました。昨年発売のインドカレー屋さんの謎ドレッシングは継続的にヒットしております。また、今年は洋食屋さんのただただおいしいドレッシングを発売いたしました。順調に売上を伸ばしております。

2 段目、ふりかけるザクザクわかめは好調に販売を継続しております。下段ですが、素材力だしにつきましてはテレビ CM の効果もございまして増加いたしました。

一方、左側でございます。定番のノンオイルドレッシングは主力の青じそドレッシングこそ健闘いたしました。その他については苦戦しております。2 段目、ふえるわかめちゃんにつきましては、8 月の価格改定前の駆け込み需要こそあったものの、全体的には苦戦しております。一番下ですが、わかめスープにつきましては 2 月の価格改定以降、半期を通じて苦戦中です。

セグメント別概況 国内食品事業（2/2）

理研ビタミン株式会社

業務用食品

単位：百万円	2023年度2Q	2024年度2Q
売上高	10,639	11,415 /

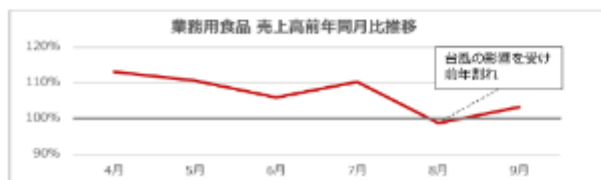
【販売先業態別概況】

● 外食・給食向け

期初の想定よりも需要は堅調に推移
スポット品を含む大手チェーン向けの新規採用も貢献

● 中食業界向け

CVS向けは国産わかめの価格高騰の影響もあり
わずかに前年同期を下回る
各種惣菜や即席めん向けの調味料、改良剤が伸長



加工食品用原料等

単位：百万円	2023年度2Q	2024年度2Q
売上高	13,837	14,098 /

【製品群別概況】

● 食品用改良剤

主力の製パン業界向けをはじめ
需要は堅調に推移
品目構成を見直し、利益率が改善



● ビタミン

栄養強化用途は前年の反動減



● その他ヘルスケア商品

クロセチンの販売が好調
他社での品質問題を受け、健康食品市場
全体の成長には陰り



左側、業務用食品につきご説明申し上げます。売上高は増収となっております。夏場、台風等の影響もありまして前年を割る月もありましたけれども、半期を通じて旺盛なインバウンド需要もありまして、外食需要は堅調に推移しております。また、中食におきましては惣菜や即席麺向けの調味料、改良剤が伸長いたしました。

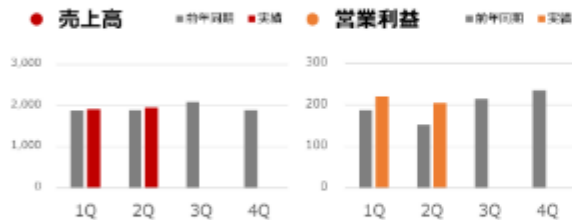
右側、加工食品用原料等につきご説明いたします。食品用改良剤につきましては、主力の製パン業界向けをはじめ、需要は堅調に推移しております。ビタミンは、大変良かった昨年に対しまして反動減となっております。またクロセチンは継続して好調をキープしております。

セグメント別概況 国内化成品その他事業／海外事業

理研ビタミン株式会社

国内化成品その他事業

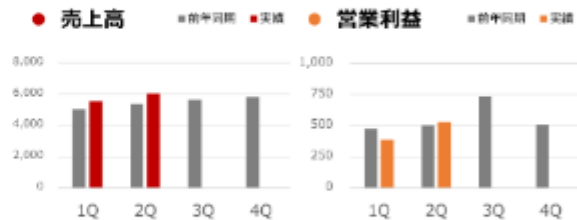
単位：百万円	2023年度2Q	2024年度2Q
売上高	3,771	3,874 ↗
営業利益	342	427 ↗



- 売上高・販売数量とも前年を上回る
- 食品包装ラップ向けが伸長。自動車業界向けや建材向けは需要回復が鈍く数量ダウン
- 工場稼働率低迷の課題は残るが、適正価格の維持により利益率は改善

海外事業

単位：百万円	2023年度2Q	2024年度2Q
売上高	10,423	11,582 ↗
営業利益	984	918 ↘



- 販売数量を意識した戦略が奏功し、台湾を除いた地域で販売数量が増加
- 販売単価の引き下げや人件費、物流費の増加により利益率は低下
- 欧米向けの海上物流は混乱が続く

国内化成品その他事業、海外事業についてご説明いたします。まず左側、国内化成品その他事業でございますが表の通り増収増益となりました。黒ポチの一つ目、売上高、販売数量ともに前年を上回っております。食品包装ラップ向けの販売増加が全体をけん引しております。一方で自動車業界向け、また建材向けについては需要回復が鈍く数量が減っております。

右側、海外事業ですが、増収ながら減益となりました。今年度につきましては、販売数量を意識し、業務に取り組んでおります。増収についてはその効果が表れたと認識しております。しかしながら国内と同様、人件費、また特に物流コストの増加が利益に大きく影響し減益となりました。

営業外収支、特別損益等の増減

理研ビタミン株式会社

為替差損や退職給付制度の改定が影響

単位：百万円

	2023年度 中間期	2024年度 中間期	前年同期比	主な増減要因（前年同期比）
営業利益	4,596	4,626	+30	
営業外収益	724	642	▲82	
営業外費用	99	481	+382	為替差損（+396）
経常利益	5,220	4,786	▲433	
特別利益	78	681	+603	投資有価証券売却益（+552）
特別損失	118	961	+842	退職給付制度改定損（+680）
税引前利益	5,181	4,507	▲673	
法人税等	1,511	1,250	▲261	
非支配株主に帰属する 中間純利益	2	2	▲0	
親会社株主に帰属する 中間純利益	3,667	3,255	▲411	

10

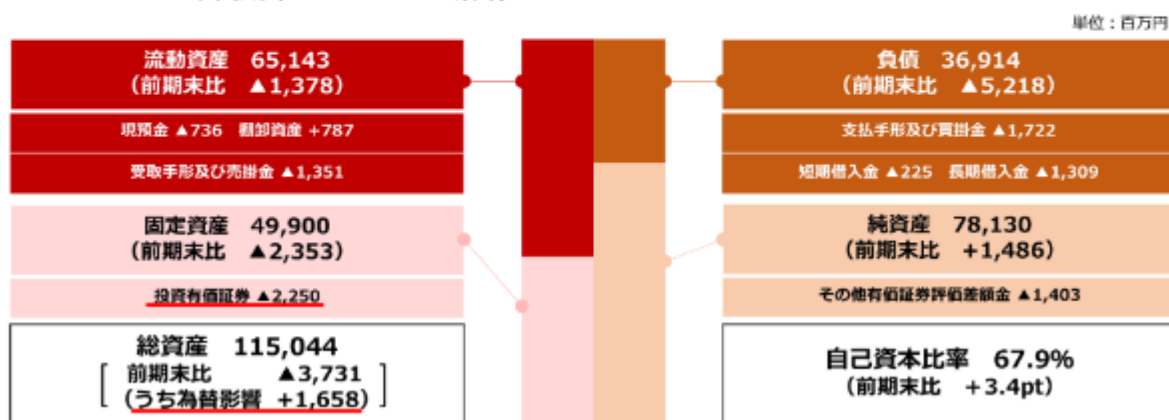
先ほど申し上げました経常利益、そして中間純利益についてご説明申し上げます。まず起因する営業外の損益でございますが、営業外費用として為替差損 3 億 9,600 万を計上しております。こちらは当社がグループで保有する外貨資産に、評価損が発生したということでございます。9 月の末に一時的に 1 ドル 142 円と円高になったことから、この評価損が発生したということでございます。

また、特別損益についてご説明申し上げます。まず特別利益の欄に、投資有価証券の売却益を 5 億 5,200 万円計上しております。また特別損失として、退職給付制度改定損を 6 億 8,000 万円計上いたしました。

今年、退職給付制度の一部見直しを行いました。同時に確定給付年金 DB に加えまして、確定拠出 DC を導入したことによりまして、本損失が発生したということでございます。本処理については一過性の処理となっております。なお、この退職給付制度改定損につきましては、期初計画では下期予算として計上しておりましたので、通期の計画としては影響ございません。

為替影響を除くと総資産は実質53億円減少

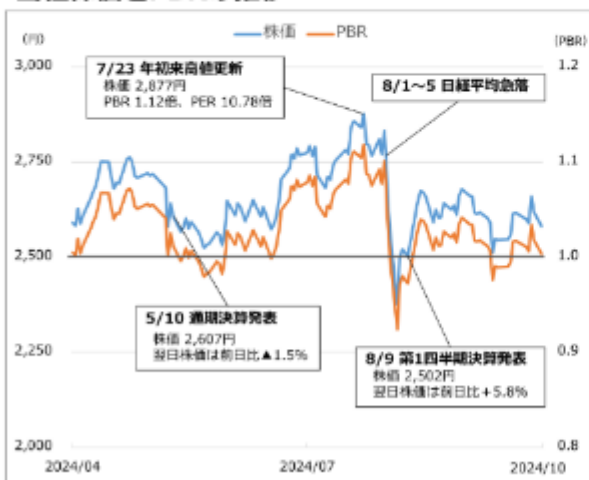
- 政策保有株式の縮減と株価下落により投資有価証券が22億円減少
- 前期末は休日だったため売掛金、買掛金が通常より多く計上
中間期末ではそれらが解消



貸借対照表につきご説明申し上げます。総資産は1,150億円と、前期末比37億円減りました。前期末が休日でしたので、売掛金、買掛金が減少しております。また長短の借入金の返済が合計して15億円ほどございました。投資有価証券につきましては、期末の時価評価の評価損、また売却もしておりますので、これらを合わせて22億円減少しております。自己資本比率につきましては、前期末比プラス3.4ポイントの67.9%となっております。

資本市場からの期待と信頼獲得に向けた施策が必要

当社株価とPBRの推移



- 通期決算発表後、株価はやや低水準で推移
- 7月に年初来高値を更新も、直後に日本市場全体で株価が急落
- 1Q決算発表後にやや持ち直したが伸びを欠く

	株価	PBR	PER
2024/04/01	2,590円	1.01倍	9.71倍
2024/09/30	2,582円	1.00倍	9.68倍

当社の資本収益性（予想ROE10.4%）に対し
株価はまだ割安
引き続き経営の強化と対話の充実に取り組む

資本収益性と市場評価についてご説明申し上げます。まず株価でございますが、表の中にございます7月23日、年初来の高値の2,877円を付け、PBRも1.12倍、PERは10.78倍となりましたが、期末、期初、そして昨今につきましても約2,500円台で推移しております。

当社の予想ROEは今年度10.4%です。昨年度実績が11.8%ということで、安定して10%を超えていることを考えれば、まだまだ株価は割安と考えております。引き続き経営の強化、ステークホルダーの皆様との対話の充実に取り組んでまいります。

製品群を軸とした事業別ROICを算出

当社の事業構成

- コア事業＝食品、改良剤、ヘルスケア
- 経営管理上は製品群を軸に事業を細分化
⇒ **事業別ROICを算出**
- 決算セグメントはマーケットベースのため
複数事業にまたがる

今後の方針

- 各事業のシナジーも考慮しながら
ROICを経営の強化に活用
- ROICの低い事業はその要因を分析し、
改善策を講じる

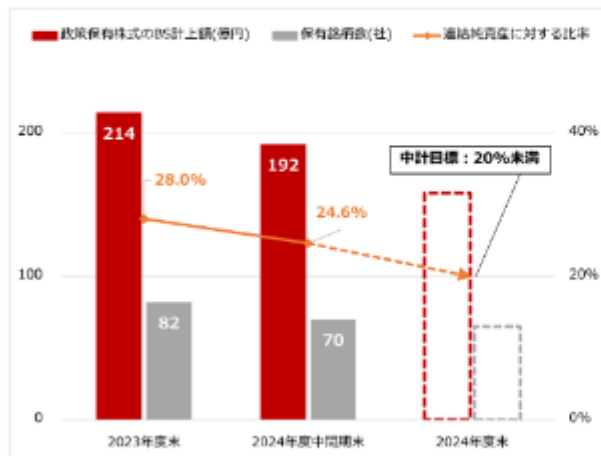
主な製品群と決算セグメント



もう一つ、資本効率の向上に向けた取り組みとしてご説明いたします。当社では製品群を軸といたしました事業別の ROIC を算出いたしまして、採算の強化に取り組んでまいります。今後につきましても、各事業のシナジーを考慮しながら、この ROIC 指標を経営の強化に活用してまいります。特に採算性の低い事業につきましては、その要因を分析いたしまして改善策を立て、実行し、収益性の強化に取り組んでまいります。

目標達成に向けて引き続き縮減を進める

政策保有株式の保有状況



- 2024年度上期の売却実績は約8億円（14銘柄、一部売却含む）
- 株価の下落もあり、政策保有株式BS計上額は前期末から22億円減少
- 純資産比率20%未満の目標達成に向けて下期は縮減を加速

**20%未満は通過点
来期以降も見直しは継続**

最後に、政策保有株式の縮減につきご説明申し上げます。上期は一部の売却を含めまして14銘柄、約8億円を売却いたしました。この売却と評価損を合わせまして、9月の末は前期末比マイナス22億円の192億円となりました。純資産に占める比率は24.6%となっております。

下期につきましては、現在の中期経営計画の目標であります 20%未満までの削減の実現に向けて注力してまいります。また、来年度以降につきましても、さらなる削減に継続して取り組んでまいります。

以上、富取よりご報告させていただきました。ありがとうございました。

1. 2024年度 第2四半期（中間期）業績

2. 2024年度 業績見通し

15

山木：社長の山木でございます。2024年度の業績見通しについては、私からご説明申し上げたいと思います。

- **通期業績、年間配当は変更せず**
- **上期業績は上振れも、下期の事業環境は厳しさを増す見通し**
- **国産わかめなどの原材料価格や包材費、エネルギー費、人件費、物流費などの上昇が利益に影響**
- **海外では海上物流の混乱が長期化**

2024 年度業績予想のポイントでございますが、上期業績は上振れいたしました。が、下期の事業環境は厳しさを増す見通しでございますので、通期業績、年間配当に関しては、今のところ変更しないことにしております。

国産わかめなどの原材料価格や包材費、エネルギー費、人件費、物流費などの上昇が利益に影響すると想定しております。海外市場においては、海外物流の混乱が長期化しておりまして、これも懸念材料と思っております。

当期純利益以外は通期予想に対する進捗率50%超

単位：百万円

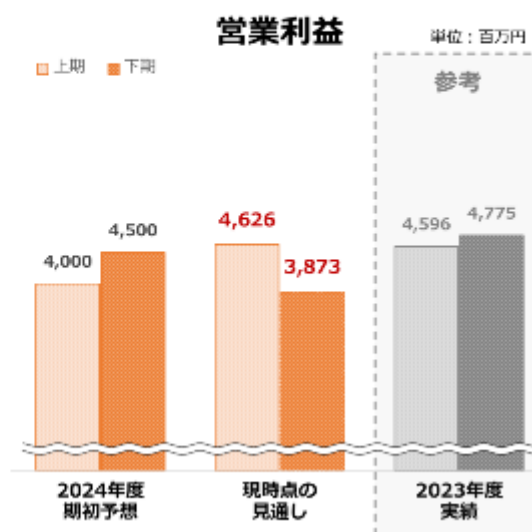
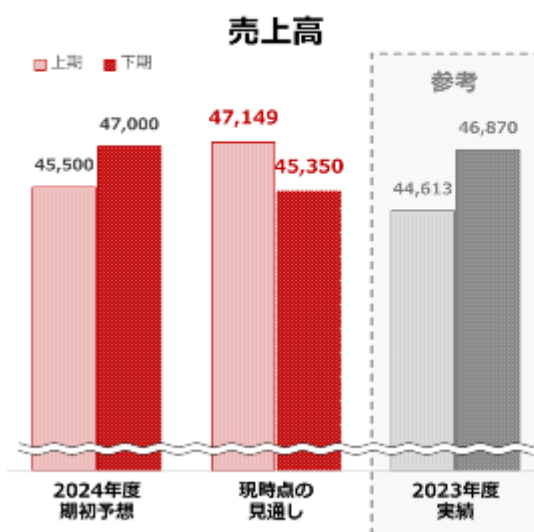
	2024年度 中間期	2024年度 通期予想	進捗率	2023年度 実績	前期比 増減率
売上高	47,149	92,500	51.0%	91,484	+1.1%
営業利益	4,626	8,500	54.4%	9,371	▲9.3%
営業利益率	9.8%	9.2%		10.2%	▲1.0pt
経常利益	4,786	9,000	53.2%	10,296	▲12.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,255	8,100	40.2%	8,755	▲7.5%
ROE	-	10.4%		11.8%	▲1.4pt

- 国内では生活防衛意識の高まり、海外では海上物流の混乱などが販売に影響
- 期初予想に織り込んでいなかった国産わかめの価格高騰に加え、油脂や脂肪酸、ビタミン、調味料、色素などの原材料価格も想定より上昇基調
- 下期は政策保有株式の縮減を加速し、投資有価証券売却益の計上を見込む

それでは、中間期時点での通期予想に対する進捗率をまとめた表をご説明申し上げたいと思います。売上高、営業利益、経常利益は中間期の時点では進捗率 50%を超えております。ただし、国内では生活防衛意識の高まりにより消費が冷え込むおそれがあること、海外では海上物流の混乱が続いていることなどが、マイナス要因になってきております。また原材料価格の上昇が利益を圧迫する見通しのため、楽観視はできないと思っております。

当期純利益については進捗が遅れているように見えますが、これはもともと下期に織り込んでおりました退職給付制度改定に伴う特別損失が上期に発生したためであり、政策保有株式の縮減に伴う売却益でカバーする計画でございますので大きな問題はございません。

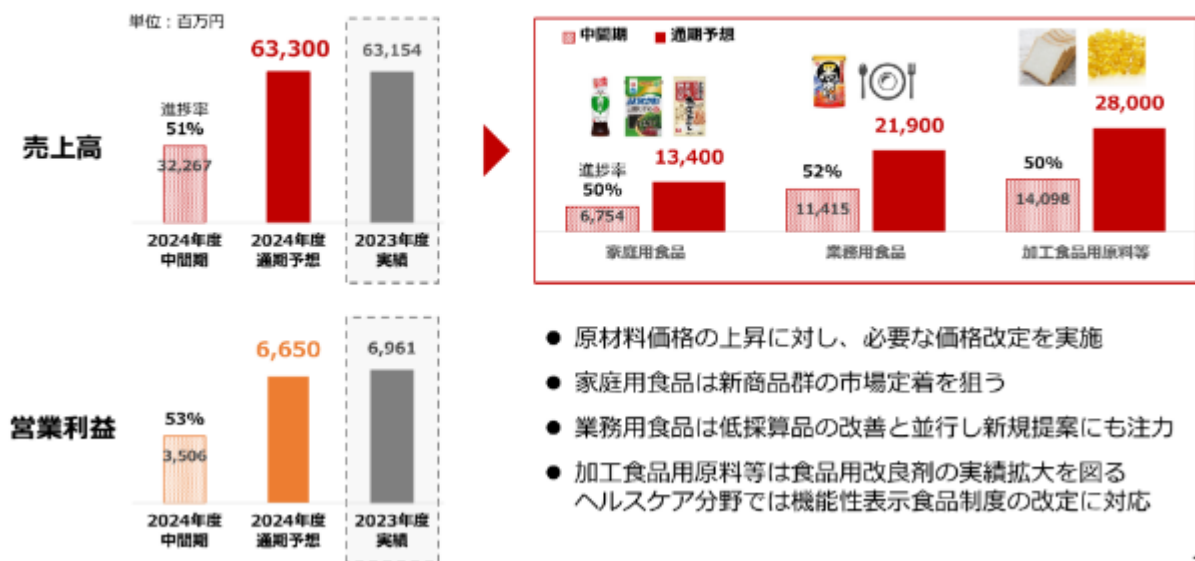
上期／下期のバランスが当初の想定から逆転



中間期実績を踏まえた見通しについてご説明したいと思います。期初予想では、下期は上期よりも事業環境が好転し、売上高、営業利益ともに伸びると見込んでおりました。しかし、予想に反しまして上期業績が上振れしたため、通期業績から逆算すると、上期と下期のバランスが逆転するかたちになっております。

現時点で、下期の業績がここまで極端に落ち込むことは確実とまでは考えておりませんが、今後の事業環境によって業績が大きくぶれる可能性があると考え、通期予想の修正には至りませんでした。もちろん会社としてはしっかりと環境変化に対応し、より高い業績を目指してまいりたいと思っております。

価格改定などによる数量への影響が懸念材料



19

次に、セグメント別の予想についてご説明したいと思います。まず国内食品事業でございますが、国内食品事業は原材料価格の上昇に対し、必要な価格改定を実施してまいります。国産わかめについては家庭用、業務用とも8月に価格改定を実施いたしました。業務用では来年2月から調味料70品目の価格改定を行うほか、メーカー向け製品も随時交渉を進めてまいります。意図的な品目整理の実施も予定しておりまして、ある程度、数量への影響が見込まれると思っております。

人件費などの増加もあり利益面では厳しくなりますが、一方でポジティブな要因もございます。家庭用では、今期も新商品が好調でございます。業務用は市場環境の良い状態がまだ続いておりまして、大手外食チェーン向けの新規採用も獲得できております。加工食品用原料等では、食品用改良剤の需要が堅調でございまして、これらでマイナス要因を補ってまいりたいと思っております。

「新商品グランプリ 2024秋冬」
総合グランプリ、加工食品部門第1位

(主催：株式会社日本アクセス)

【受賞商品】
割るだけスープ ホタテチャウダー
(2024年8月発売)

- ・ お湯や水、ミルクなどで割って飲む液体濃縮スープ
- ・ 液体なのでダマにならず、量、濃さ、温度の調整も自由
- ・ 国内トップシェアのホタテエキスをふんだんに使用

機能性食品用原料「クロセチン」
採用拡大

- 健康食品に加え、一般加工食品にも採用が拡大
- 睡眠関連市場の拡大が追い風
- クロセチンの安定供給体制の構築を図りつつ 次の柱となる機能性成分の開発も進める

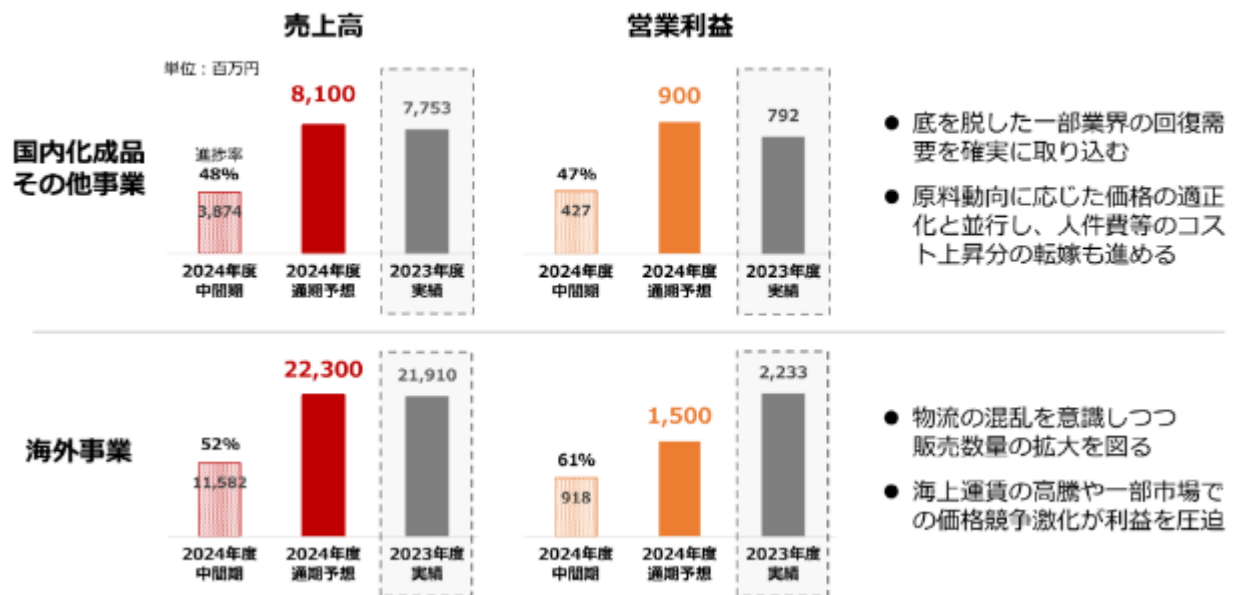
ここで国内食品事業に関してトピックスを2点ご紹介したいと思います。

一つ目は家庭用の新商品 8 月発売の、割るだけスープホタテチャウダーでございますが、これは日本アクセス主催の新商品グランプリで総合グランプリと、加工食品部門第1位を受賞いたしました。割るだけスープシリーズは液体濃縮タイプのスープでございます。液体なので冷たい水やミルクに入れてもダマにならず、量や濃さも自由に調整できます。これまで市場にありそうでなかったコンセプトが高く評価されたと思っております。

二つ目は、ヘルスケア商品のクロセチンでございます。これまでは睡眠の質の改善等でサプリメントタイプの商品の原料として販売しておりましたが、飲料のような一般の加工食品にも採用が拡大してまいりました。引き続き需要は高いので、下期以降も安定的に売上と利益を稼げると期待しております。

セグメント別予想 国内化成品その他事業／海外事業

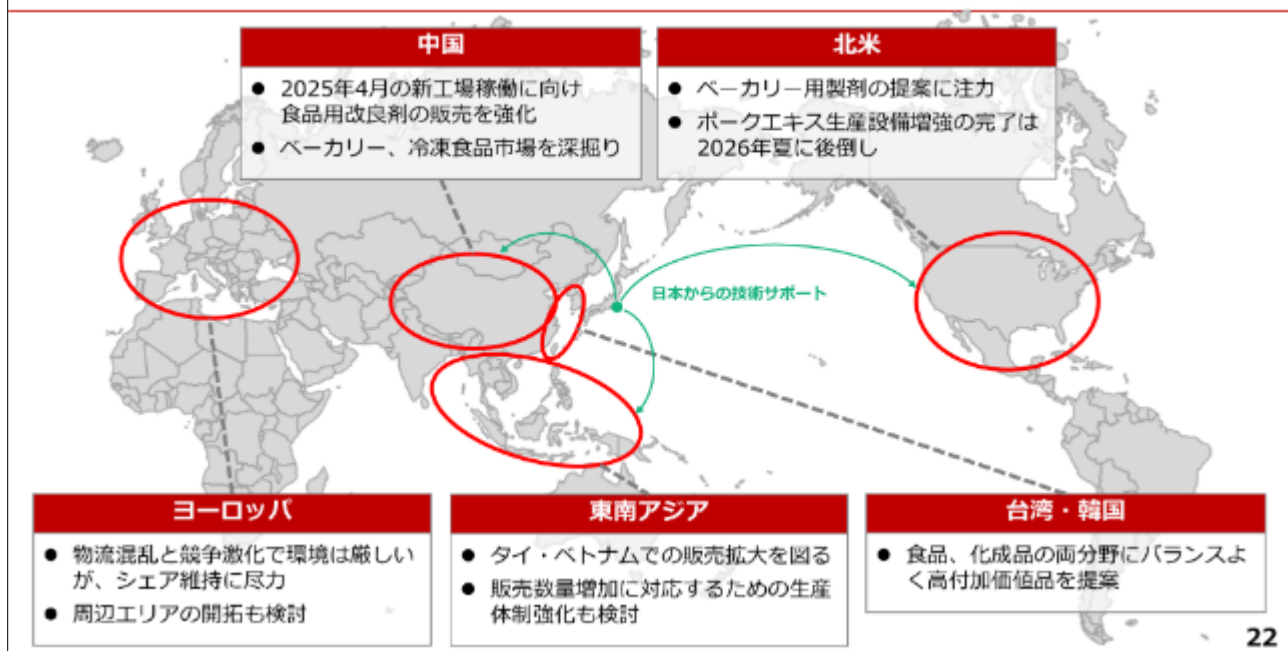
理研ビタミン株式会社



21

次に国内化成品その他事業でございますが、国内化成品その他事業は意欲的な計画を立てていたこともあり、中間時点では進捗率 50%には達しておりません。ただし、食品包装ラップなどの業界では需要が回復しつつあるため、その需要を取り込み、販売数量を伸ばしてまいりたいと思っております。原材料価格はピーク時より下落している一方、人件費やエネルギー費などのコストが上がっているため、販売価格については慎重に交渉してまいりたいと思っております。

海外事業は、販売数量の拡大を図る方針を継続してまいります。利益面は価格競争の激化や人件費、物流費などの上昇により厳しさを増すと見込んでおります。海上物流の混乱や各国の景気動向がリスク要因となり、今後の状況次第で大きく業績が変動する可能性があるため、しっかりと事業環境の変化に対応してまいりたいと思っております。



次に、海外事業のエリア別の施策についてご説明したいと思います。中国では、来年春に天津の新工場が稼働開始するため、それに向けて新規実績の獲得に注力してまいります。主力はベーカリー向けでございますが、近年中国で拡大しております冷凍食品向けの改良剤などの販売にも、注力してまいりたいと思っております。

北米では、新設したアプリケーションセンターを活用し、ベーカリー向けの提案を強化いたします。ポークエキス生産設備の増強については、当初の予定から1年弱遅れる見込みとなりましたが、既存のキャパの範囲内で拡販を続けることは可能と思っております。

ヨーロッパでは、物流の混乱による配送遅延を理由にシェアを奪われないよう、しっかりと顧客対応してまいりたいと思っております。

東南アジアでは、重点市場であるタイとベトナムでの販売を拡大するため、現地に子会社を新設することといたしました。この件について次のスライドでご説明したいと思います。

タイ・ベトナムに販売子会社を設立 (2025年1月予定)



東南アジア・南アジア・オセアニア地域は
シンガポールの子会社が管轄

3つの販売会社で東南アジア市場を深掘り

- 迅速かつきめ細かな顧客対応
- スムーズな法規制対応

提案力向上
ビジネスサイクル加速

タイ



- ・ 成熟市場
- ・ 市場ニーズが多様化・高度化

ベトナム



- ・ 成長市場
- ・ 経済成長に伴い市場拡大見込み

現在、東南アジア周辺地域への販売はシンガポールの子会社が一手に担当しており、タイやベトナムでも既にそれなりの販売実績がございます。一方、エリア内で担当する国が多く、国ごとに市場ニーズや法規制が異なるため、シンガポールの1社のみでこれに全て対応するには、負担が大きくなってきておりました。

そこで東南アジアの中でも売上規模が大きく、今後も拡大が期待できるタイとベトナムに子会社を設立することといたしました。これにより、これまで以上にきめ細かい顧客対応が可能になり、また商品の輸入手続の迅速化にもつながり、ビジネスサイクルを加速することができると考えております。子会社設立の登記は来年1月頃を予定しております。

天津理研維他食品 新工場の建屋はほぼ完成

食品用改良剤 新工場



▲天津理研維他食品有限公司 全景

食品用改良剤 既存工場

⇒一部設備は新工場完成後に稼働停止

概要

建築面積	約2,600㎡
最大生産能力	年間15,600t (液体9,600t、粉体6,000t)
稼働開始	2025年4月 (予定)

既存工場と合わせ、2028年までに
現在の **約2倍※** の生産を目指す

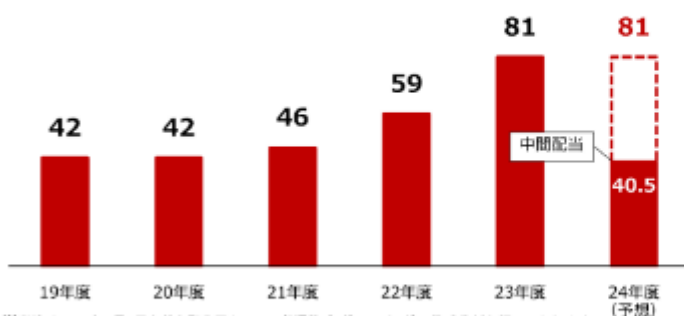
※年間19,000t

続いて昨年お知らせいたしました、中国の天津の新工場の建設工事についての進捗を報告いたします。工事は順調に進んでおり、建屋は、ほぼこの左手の写真のように完成しております。今後、内装工事などを進め、予定通り2025年4月の稼働開始を目指しております。

なお、二つある既存の食品用改良剤工場のうち、全景写真右側の工場は老朽化が進んでおりますので、新工場完成後に稼働を停止する予定にしております。その分を差し引いても十分な生産能力となりますので、キャパアップに向けて積極的な販売活動を進めるつもりでございます。

中間配当、通期配当予想は変更無し

1株当たり年間配当金(円)



下期に政策保有株式の縮減に伴う
投資有価証券売却益を一定程度見込む

	2024年度		進捗率
	中間期	通期予想	
親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	3,255	8,100	40.2%
配当金総額(百万円)	1,237	2,475	50.0%
配当性向	-	30.6%	-

<配当方針>

経営環境、業績、財務状況、株主還元性向、経営基盤強化のための内部留保等を総合的に勘案しながら、**連結配当性向30%以上**を目安に安定的な配当を継続して実施

配当についてご説明いたします。配当については、最初にお伝えした通り、期初予想から変更しておりません。中間配当も、予定通り40円50銭で取締役会決議を済ませております。下期の政策保有株式縮減により、配当原資は十分に確保できる見込みでございます。

8つのマテリアリティを特定



最後に、マテリアリティの見直しについてご報告申し上げます。当社は2019年からCSR活動の重点テーマとして、マテリアリティを掲げてまいりました。このたび中長期の戦略と事業環境の変化を踏まえ、経営上の重点課題としてマテリアリティの見直しを行いました。

新たに特定したマテリアリティは、こちらの八つでございます。今後はマテリアリティへの取り組みを通して、環境価値、社会価値の創出とともに、企業価値の向上を目指してまいりたいと思っております。具体的な取り組み内容やKPIについては今後開示していく予定にしております。

**持続可能な社会を
スペシャリティな製品とサービスで支え、
成長する会社になる**



理研ビタミン株式会社

持続可能な社会をスペシャリティな製品とサービスで支え、成長する会社になる。この中長期ビジョンの下、企業活動に邁進してまいりたいと思っておりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。ご清聴ありがとうございました。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その実現を当社として約束する趣旨のものではありません。
実際の業績等は今後さまざまな要因により、大きく異なる結果となる可能性があります。

お問い合わせ先

経営企画部 広報・IR室 井上・清水

T E L : 03-5362-1315

補足資料

純利益の減少などにより営業CFは18億円減少

単位：百万円

	2023年度 中間期	2024年度 中間期	前年同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,649	2,836	▲1,813
税金等調整前中間純利益	5,181	4,507	▲673
投資有価証券売却損益	-	▲550	▲550
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲729	▲828	▲99
有形固定資産の取得による支出	▲754	▲2,166	▲1,412
投資有価証券の売却による収入	-	789	+789
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲2,673	▲2,984	▲310
配当金の支払額	▲1,188	▲1,538	▲349
現金及び現金同等物の中間期末残高	18,490	19,632	+1,142

2024年度
中間期
FCF 2,007

2024年度第2四半期（中間期）セグメント別業績

単位：百万円

		2023年度 中間期	2024年度 中間期	前年同期比	
				増減額	増減率
国内食品事業	売上高	31,082	32,267	+1,184	+3.8%
	営業利益	3,575	3,506	▲68	▲1.9%
	営業利益率	11.5%	10.9%	▲0.6pt	
家庭用食品	売上高	6,606	6,754	+148	+2.2%
	売上高	10,639	11,415	+775	+7.3%
	売上高	13,837	14,098	+260	+1.9%
国内化成品その他事業	売上高	3,771	3,874	+102	+2.7%
	営業利益	342	427	+85	+25.0%
	営業利益率	9.1%	11.0%	+1.9pt	
海外事業	売上高	10,423	11,582	+1,158	+11.1%
	営業利益	984	918	▲65	▲6.6%
	営業利益率	9.4%	7.9%	▲1.5pt	

2024年度通期 セグメント別業績予想

理研ビタミン株式会社

単位：百万円

		2023年度 通期	2024年度 通期	前期比	
				増減額	増減率
国内食品事業	売上高	63,154	63,300	+145	+0.2%
	営業利益	6,961	6,650	▲311	▲4.5%
	営業利益率	11.0%	10.5%	▲0.5Pt	
	家庭用食品	売上高	13,138	+261	+2.0%
	業務用食品	売上高	21,887	+12	+0.1%
国内化成成品その他事業	加工食品用原料等	売上高	28,128	▲128	▲0.5%
	売上高	7,753	8,100	+346	+4.5%
	営業利益	792	900	+107	+13.6%
海外事業	営業利益率	10.2%	11.1%	+0.9pt	
	売上高	21,910	22,300	+389	+1.8%
	営業利益	2,233	1,500	▲733	▲32.8%
	営業利益率	10.2%	6.7%	▲3.5pt	

32

連結業績推移

理研ビタミン株式会社

(百万円)	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度 予測
売上高	85,603	88,072	87,181	89,515	89,024	82,974	77,722	79,231	88,750	91,484	92,500
前期比増減率	0.2%	2.9%	▲1.0%	2.7%	▲0.5%	▲6.8%	▲6.3%	1.9%	12.0%	3.1%	1.1%
営業利益	4,610	6,007	6,820	5,424	4,580	5,307	1,367	5,840	7,158	9,371	8,500
前期比増減率	▲8.3%	30.3%	13.5%	▲20.5%	▲15.6%	15.9%	▲74.2%	327.2%	22.6%	30.9%	▲9.3%
売上高営業利益率	5.4%	6.8%	7.8%	6.1%	5.1%	6.4%	1.8%	7.4%	8.1%	10.2%	9.2%
経常利益	4,645	5,321	6,248	4,587	4,388	5,045	1,652	6,182	7,723	10,296	9,000
売上高経常利益率	5.4%	6.0%	7.2%	5.1%	4.9%	6.1%	2.1%	7.8%	8.7%	11.3%	9.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	3,755	4,107	4,089	4,800	2,623	▲8,933	▲1,618	21,582	6,414	8,755	8,100
売上高当期純利益率	4.4%	4.7%	4.7%	5.4%	2.9%	—	—	27.2%	7.2%	9.6%	8.8%
総資産額	114,049	109,030	109,342	110,994	109,706	101,853	106,535	102,660	105,223	118,776	
純資産額	76,036	74,341	53,611	58,919	59,229	46,789	46,674	66,539	71,371	76,643	
自己資本比率	66.1%	67.7%	48.9%	52.7%	53.9%	45.5%	43.3%	64.8%	67.8%	64.5%	
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,941	8,377	8,126	5,753	6,689	5,850	7,660	6,823	7,835	10,451	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲5,690	▲6,389	▲3,080	▲1,617	▲3,388	▲4,282	▲2,322	▲3,661	▲2,034	▲554	
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,222	▲3,140	▲1,881	▲5,869	▲2,490	▲3,051	▲180	▲7,565	▲4,578	▲7,084	
ROE	5.3%	5.5%	6.4%	8.6%	4.9%	▲17.0%	▲3.5%	38.3%	9.3%	11.8%	10.4%

*2021年度より「収益認識に関する会計基準」等を適用しています

33

セグメント別四半期累計業績推移

(百万円)		2023年度				2024年度				2024年度 通期予想
		1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	1Q	1-2Q	1-3Q	1-4Q	
売上高	国内食品事業	15,626	31,082	48,129	63,154	16,441	32,267			63,300
	家庭用食品	3,403	6,606	10,058	13,138	3,397	6,754			13,400
	業務用食品	5,397	10,639	16,532	21,887	5,946	11,415			21,900
	加工食品用原料等	6,825	13,837	21,538	28,128	7,097	14,098			28,000
	国内化成品その他事業	1,879	3,771	5,857	7,753	1,913	3,874			8,100
	海外事業	5,052	10,423	16,081	21,910	5,548	11,582			22,300
	調整額（セグメント間消去）	▲ 368	▲ 664	▲ 1,010	▲ 1,334	▲ 277	▲ 574			▲ 1,200
	連結合計	22,189	44,613	69,058	91,484	23,626	47,149			92,500
営業利益	国内食品事業	1,968	3,575	5,823	6,961	1,910	3,506			6,650
	国内化成品その他事業	188	342	557	792	222	427			900
	海外事業	479	984	1,723	2,233	388	918			1,500
	調整額（セグメント間消去）	▲ 160	▲ 305	▲ 443	▲ 616	0	▲ 226			▲ 550
	連結合計	2,476	4,596	7,660	9,371	2,522	4,626			8,500
経常利益		2,998	5,220	8,396	10,296	2,927	4,786			9,000
親会社株主に帰属する四半期/当期純利益		2,068	3,667	6,080	8,755	2,370	3,255			8,100

セグメント別四半期業績推移

(百万円)		2023年度				2024年度			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	国内食品事業	15,626	15,456	17,046	15,024	16,441	15,825		
	家庭用食品	3,403	3,202	3,452	3,079	3,397	3,356		
	業務用食品	5,397	5,242	5,892	5,355	5,946	5,468		
	加工食品用原料等	6,825	7,012	7,701	6,589	7,097	7,001		
	国内化成品その他事業	1,879	1,892	2,086	1,895	1,913	1,960		
	海外事業	5,052	5,370	5,657	5,829	5,548	6,033		
	調整額（セグメント間消去）	▲ 368	▲ 295	▲ 345	▲ 324	▲ 277	▲ 296		
	連結合計	22,189	22,424	24,445	22,425	23,626	23,523		
営業利益	国内食品事業	1,968	1,607	2,248	1,138	1,910	1,596		
	国内化成品その他事業	188	153	215	235	222	205		
	海外事業	479	504	739	509	388	530		
	調整額（セグメント間消去）	▲ 160	▲ 145	▲ 137	▲ 173	0	▲ 227		
	連結合計	2,476	2,119	3,064	1,710	2,522	2,104		
経常利益		2,998	2,222	3,175	1,900	2,927	1,859		
親会社株主に帰属する四半期純利益		2,068	1,598	2,413	2,675	2,370	884		